

民間と行政の協働による地域で支える子育て支援

沖縄県読谷村 子育てサポート『くるくる』代表 知花洋子
沖縄県読谷村教育委員会生涯学習課（係長） 宜保 健

1 読谷村について

読谷村は、那覇から北に28km、東シナ海に面した沖縄本島中部の半島に位置し、人口約3万9千人余、小学校5校・中学校2校・高校1校（児童生徒数約5千人）の規模の村である。本村の先人たちは、琉球王朝時代、中国（明）との進貢貿易をとおして栄えてきた。それらは今日、読谷山花織・焼物などの伝統工芸品や、村内各地に残る民俗芸能として伝承され、読谷の大地に深く根ざしている。

その先人たちの残した自然や風土・歴史・文化は、村民にとって誇りであり、未来に継承していくため、村づくりの基本理念を「平和共存・文化継承・環境保全・健康増進・共生持続」として、様々な取組を行っている。

2 子育てサポート『くるくる』活動の経緯・目的

(1) 地域の実態と活動のねらい

少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子育てをとり巻く環境が大きく変化する中で、家庭や地域における子育て機能の低下や、子育て中の親の孤独感や不安感の増大等といった問題が生じている。

このため、子育ての新たな課題とニーズに応え、また、利用者の育児ストレス解消に、少しでも役立つように『くるくる』を立ち上げた。

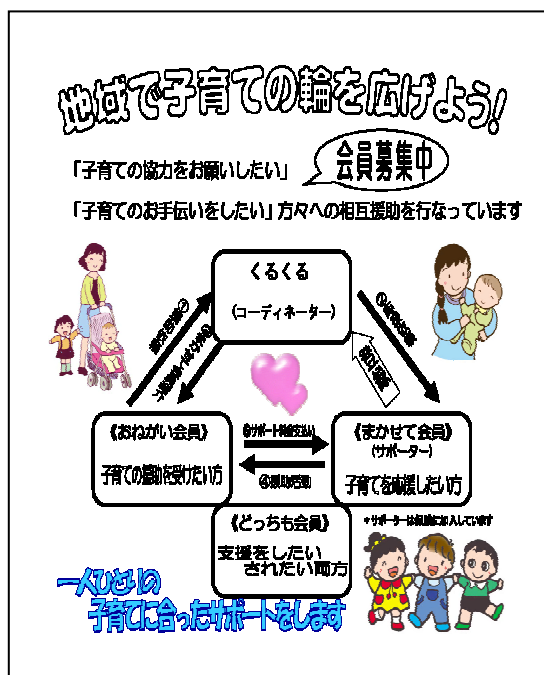
(2) 現在の活動までの経緯

子育て支援サポート『くるくる』は、読谷村教育委員会生涯学習課の企画する「子育てサポートリーダー養成講座」を受けたメンバーが中心になり、平成17年4月に立ち上がった。

『おねがい会員』として登録している親が、急用や病気の時に、『サポート会員』に有償ボランティアで、子どもを預けるといったシンプルなシステムで始めた。

初めは、なかなか依頼が無く、『おねがい会員』よりも『サポート会員』の方が多かったが、村内保育園や役場にチラシを置いてもらったことで、少しずつ会員が増えていった。

現在は、『おねがい会員』200名、『サポート会員』80名となり、関連したサークル活動なども、活発に行われている状況である。



3 活動の内容

(1) 《日中預かり》

- 保護者の就労のため
- 保護者や家族の体調不良や病気の時
- 母親の勉強会、講習会等参加の時
- 兄弟の保護者会、入園、卒園式、学校行事出席の時

(2) 《早朝・夜間預かり》

- 保護者が早朝出勤のため、保育園や学校が始まる時間までサポーター宅で預かり、保育園などに連れて行く。
- リフレッシュのための両親での外出時（外国人利用者が多い。）
- 保護者の残業時（急な場合が多く、閉園前の保育園に迎えに行き、サポーター宅で預かる場合が多い。）

(3) 《送迎》

- 学童保育へ迎えに行き、親が迎えに来るまでサポーター宅で預かる。
- 学校に迎えに行き、学童保育へ連れて行く。
- 保育所へ迎えに行き、自宅へ送る。
- 学校に迎えに行き、習い事に連れて行く。

(4) 《イベント活動》

- イベントの際の手伝いや短時間の預かりサポート
- 講演会・講習会の企画・運営
- 食育を兼ねた調理実習
- 専門的な知識習得のための学習会
- 人形劇の企画・運営
- 読み聞かせと童謡のジョイントコンサート

4 関連事業

(1) 読谷村つどいの広場事業への関わり（厚生労働省・地域子育て支援拠点事業）

① 経緯

平成17年に地域子育て支援拠点事業として読谷村つどいの広場が開設。その際に、読谷村役場こども未来課の業務委託を受けて子育てサポート『くるくる』の関係者が運営に携わる。

② ねらい

地域において、子育て、親子の交流等を促進する支援拠点を設置することにより、地域の子育て支援機能の充実を図り、親の子育ての不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進することを目的に設置。

③ 活動内容

つどいの広場は、10:00～15:00の時間帯に、0歳～3歳の乳幼児を持つ親が、無料で自由に利用できる場所である。単に子どもを遊ばせるだけでなく、育児相談



を受けたり、母親同士の交流のため、イベントや、サークル活動をしたり、様々な活動をしている。読谷村のほぼ中央に位置しており、駐車スペースも充分で、利用しやすくなっている。

- (2) 子育て支援、関連サークルの活動と支援（つどいの広場利用者の自主活動を支える）
これまでつどいの広場を利用していた保護者どうしが、広場を卒業した後も自主的な活動として様々なイベントを展開しており、子育てサポート『くるくる』やつどいの広場の関係者が、アドバイスをを行っている。

① 《 エコママクラブ 》

生活圏内の身近なことから「上手に節約」「ものを大切に」と、エコライフを学習している。一つ活動の例を挙げると、クラフトテープ（リサイクル紙で作られた丈夫なテープ）を使った小物作りがある。特に小さなランドセル型のお守りは、人気があり、注文がきたり、講習会の依頼があったり、新たな活動の場が広がっている。

② 《 エコたん 》

読谷村役場の健康環境課の協力を得て、リサイクルマーケット「宝市」が月1回で定着しつつある。その他にも、「健康フェスタ」「まなびフェスタ」「ウォーキングフェスタ」など村のイベントとのタイアップで、出店し、集めた出店料の一部を、地震災害地の救援募金にあてた。

③ 《 体操教室 》

地域の楚辺公民館を利用し、週一回母親自身の健康維持を目的に行っている。

5 成果と課題

- (1) 成果（子育てサポート『くるくる』がつどいの広場に関わることで見えてきたこと）

① 子育て支援という一つの活動を通して、たくさんのつながりができた。

○読谷村つどいの広場という活動の拠点ができたことで、それぞれ同じ問題や悩みをもつ親が知り合いになり、コミュニケーションの機会が多く持てるようになった。また、必要に応じて子育てサポート『くるくる』の紹介や、子育てに関するイベントや講演会などの情報提供も積極的に行うことができた。

○村内公立3保育所との連携。（交流保育・栄養指導・給食体験・など）

○地域子育て支援拠点事業・読谷村つどいの広場の運営に関わることで、役場関係課との連携が図られ、乳幼児検診や講演会の託児所運営の依頼を受けるようになる等、子育て支援に関する協力体制が次第に構築された。また、役場の臨時職としてもサポート会員のうち数名が採用になった。

○『くるくる』のイベントをとおして、つどいの広場や『くるくる』の利用者とその児童が、他の保護者や子どもたち、地域の人と多く触れあう機会が設定できた。その結果、互いに支え合う地域住民の家庭教育力の意識向上につながった。

② 活動を通して『おねがい会員』・『サポート会員』共に成長できた。

○各種イベントや講座を通して『おねがい会員』・『サポート会員』共に、教育力が向上した。

○イベントや講演会の際、講師との打合せや交渉、会場作りなどすべての作業を『く

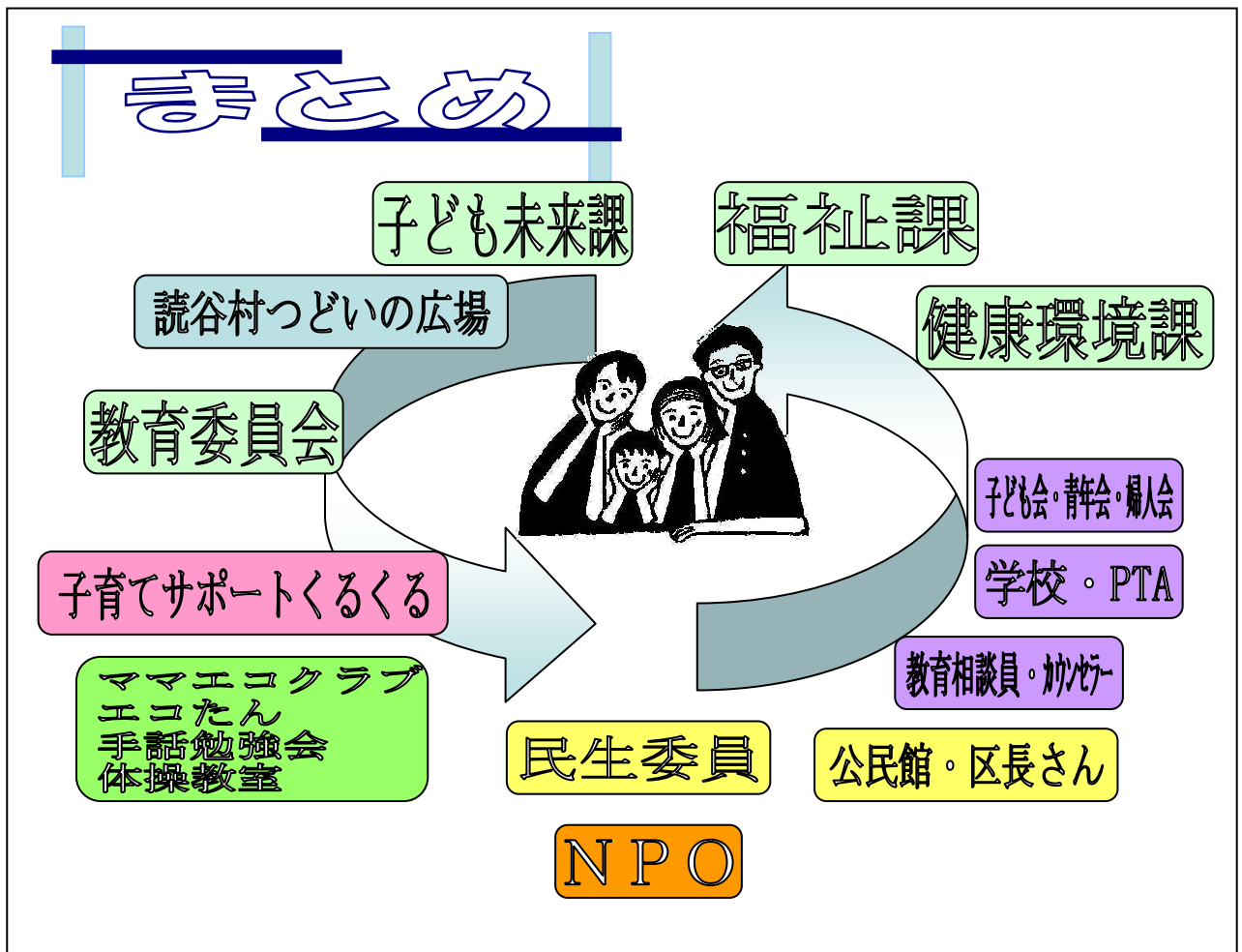
るくる』のメンバーで行ったので、イベントの運営に関わった多くの保護者の皆さんが、一つ一つ終える毎にいろんなことを学び成長することができた。

(2) 課題

- ①新たなサポートメンバーの開拓と養成
- ②現在所属するメンバーのスキルアップ
- ③事務所・サポートスペース・運営資金の確保
- ④地域に親類縁者がいない、県外出身である、外国人である方々へ24時間対応できるようにしたい。
- ⑤役場行政機関との連携・協力を密にする。

6 まとめ

地域の教育力向上のためにも、「連携」は大事なキーワードだと日頃感じているが、役場や地域の社会教育委員の方々とも連携して、福祉・保健・教育の連携の手助けができれば、もっと大きな効果が期待できる。



7 問い合わせ先

沖縄県読谷村教育委員会生涯学習課

TEL : 098-982-9231 ・ FAX : 098-982-9229